

医療相談コーナーQ&A

Q 長男(三歳)のことですが、生後一年ぐらいいから、湿しんで肌がカサカサしており、かゆがります。医者にかかると、「アトピー」だといわれ、軟こう、飲み薬をもらいました。

この病気は、同一家系に発生することもあり、ぜんそく、アレルギー性鼻炎を合併することもあります。

乳児期では、顔、頭に紅斑、丘

腫面によく見えます。成人期には、皮膚は乾燥し、厚くなり、アトピーは関節腫面だけでなく、皮膚全体にもでることもあります。

日常生活に消極的、悲観的になることもあります。しかし、この病気は、必ず治る病気です。後遺症もなく、めずらしい特異体質による病気でもありませんので、根気ある加療を必要とします。

日常生活では、食べ物の制限はなく、入浴も自由です。大多数の患者は普通の石ケンを用いてもさしつかえありませんが、症状の強いときは、石ケンの使用回数を減らすか、または弱酸性石ケンを使用することをすすめます。肌着は木綿がよいでしょう。

薬を使うと良くなりますが、止めるとまた出ます。薬を長く使っても害はないのでしょうか。また、今度保育園に行きますが、特に注意することを教えてください。

主婦(27歳)

A アトピー性皮膚炎は、慢性の湿しんのような病気です。

患者の大多数は、乳幼児から青少年までです。病気は季節によって、軽快したり、悪化したりしますが、多くの患者は、ある年齢になると自然に治ります。

“アトピー”の治療は

しん(アトピー)がはじまり、時に湿潤したり(ジクジクする)、カサプタをつけたりします。そして時には、胸、腹、背、四肢にもひろがっていきます。

期でおわり、成人期まで続くことは少ないが、個人個人により皮しの続く期間には差があります。

患者の皮膚は、湿しん様病巣と強いかゆみのためのかきこわしにより、外見が汚く、患者の肉体的精神的苦痛は大きいです。また、この病気は再発をくり返すため、患者、家族はともすれば治療に対する意欲も失いがちで、日常生活、

治療は、副腎皮質ホルモン軟こうをぬります。たしかに、この軟こうはよく効きますが、副作用もあります。しかし、普通の使用量を注意深く使用しているぶんには心配ないと思います。専門医とよく相談して、根気のよい加療が必要ですよ。

◇お気軽に質問を
この医療相談コーナーへのご質問は、封書かハガキで、市役所内・広報委員会(大甲申二三〇)まで。



4 月

冬が厳しかっただけに、春を待ち望む心が今年ほど強かった年も珍しいと思います。

ようやく梅が咲いて、一雨ごとに春の陽気が濃くなり、つくしが頭を出し、お遍路さんの姿が見られ、桜と卒进入学のニュースでほんとうの春がきます。

間もなく「早稲」の穂付けが始まります。10軒に3軒が農家のわが南国市。「米をつくるな」の国の方針がこれからの農業問題の柱です。米のかわりに野菜などをつくることによって入る金がざっと3億2千万円。毎年これぐらいの金で「食糧の安定供給者、であるという農家の心と農地を失うことになったとしたら……」。

米をつくる農家が米を食べない、学校給食を米飯に切りかえて消費拡大を……などの声を聞きますが米を食べなくなった最大の原因は、味もさることながら、「手間と時間、がはぶけることではないでしょうか。

私たちは、知らず知らず手間ひまをかけない生活を望み、実行しているようです。そのことが、子供の非行や暴力にもつながるとしたら……早急な軌道修正が必要です。

私たちの生活は、そのほとんどが法や条例の範囲で営まれていますが、生活のめまぐるしさのために「生活の範囲」を作る「政治、や「行政、のことに無関心の傾向にあるようです。

春を迎えた南国市、種々のプロジェクトが進む外面に比べ、その内面はかけりが多く、ほんとうの春まだしの感がします。